

授業科目名 (英文表記)	熊野郷土学C ～郷土学からの地域振興～ (Kumano hometown study C)			(新宮会場)
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義	
担当教員	平田 隆行、長廣 利崇、中島 敦司、中串 孝志、足立 基浩、此松 昌彦、山田 桂一郎			
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目	
実施日・時間	① 6月23日(土) 13:00～17:00	システム工学部	平田 隆行	
	② 7月7日(土) 13:00～17:00	経済学部	長廣 利崇	
	③ 7月21日(土) 13:00～17:00	システム工学部	中島 敦司	
	④ 7月28日(土) 13:00～17:00	観光学部	中串 孝志 (ゲスト講師予定)	
	⑤ 8月4日(土) 13:00～17:00	経済学部	足立 基浩	
	⑥ 8月25日(土) 13:00～17:00	教育学部	此松 昌彦 (ゲスト講師 山田 桂一郎)	

【授業のねらい・概要】

「熊野郷土学C」では、熊野郷土学A・Bでは地域資源として自然、文化、歴史を学び、地域情報の発信や地域経営という観点を学んだ。Cでは地域での経済史や災害史から地域の人々の生活を学び、さらに自然資源を利用したエネルギーの利用や将来への可能性について学ぶ。最後に環境保全と持続可能性を考慮するエコツーリズムの可能性について学びます。学生、自治体職員、地域づくり関係者、観光商工関係者、地域ガイド、ジオパーク関係者、教育関係者、Uターン者など、幅広い分野からの受講を期待します。

【授業計画】※記載の内容は変更することもあります。

第1回 「水と住まい、熊野にみる災害文化」 システム工学部 平田隆行

豪雨、台風、津波浸水を乗り越えて、熊野の暮らしには、力強い自然と共に住まうための知恵が息づいています。建物の形や地形条件、気候条件などを読み込んで「水と住まう」災害文化の意義を考えます。そのうえで、私たちは次の災害にいかにかえらるのかを考えます。

第2回 「熊野の鉱山の歴史」 経済学部 長廣利崇

熊野の炭鉱と銅山の歴史について概説します。また炭鉱の採掘方法などの技術史や労働者の生活についても紹介します。

第3回 「自然資源の地産地消による地域の自立」 システム工学部 中島敦司

熊野は海に迫る山間地からなりますが、地域環境として豊富な雨水、豊富な森林資源があります。この環境で自立したエネルギーを作ることができるでしょうか。木質バイオマス、小水力発電などを含めて考えていきます。

第4回 「国内、世界を結ぶジオパークネットワーク」 観光学部 中串先生、ゲスト講師 未定(予定)

ジオパークネットワークとは過去の災害(地球史)を学ぶフィールドミュージアムとしての役割を持ち住民自ら後世に伝える役割も担っている。このネットワークの有事に助け合う役割を紹介します。

第5回 「南紀地区 中心市街地の再生 商店街は甦るのか」 経済学部 足立基浩

これまで、田辺市や新宮市で中心市街地の活性化に関わってきました。熊野地域の再生の方向性として「商店街観光」を考えます。

第6回 「エコツーリズムと持続可能な地域づくり」 教育学部 此松先生、南紀熊野サテライト客員教授 山田桂一郎

地域の独自性とその活用を考え、次代の地域経営のあり方を持続可能な視点から考えます。

【到達目標】

紀伊半島の産業について考え、自らのことばで語り、それらの興味に基づいて、自ら文献等を調べることができる。

【教科書】

特に定めません。基本的には適宜、講義ごとに資料を配布します。

【参考書】

『観光立国の正体』藻谷浩介、山田桂一郎著 新潮新書

『わかやまを学ぶ紀州地域学初歩の初歩』東悦子、藤田和史編 清文堂

【授業時間外学習】

紀伊半島の郷土や産業のニュースについて関心を持ちながら集めておいてください。地域でどんなことが話題になっているのか整理しておいて下さい。復習と自主的な学習が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】

基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。郷土の地形地質が地域の暮らしにどうつながるのか考えてみてください。